

北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報

◆日本海溝・千島海溝沿いの後発地震への注意を促す情報

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、マグニチュード(M)7～9の大小さまざまな規模の地震が多数発生しており、2011年の東北地方太平洋沖地震など、巨大な津波を伴う地震が繰り返し発生しています。また、モーメントマグニチュード($M_w^{※1}$)7クラスの地震が発生した後、数日程度の短い期間において、さらに大きな M_w 8クラス以上の大規模な地震が続いて発生する事例なども確認されています(図1)。

そこで実際に後発地震が発生する確率は低いものの、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺(図1)で M_w 7以上の地震が発生した場合には、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表し、大地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして、後発地震への注意を促すこととなりました。12月16日(金)12時より運用を開始します。

※1 地震のずれの規模(ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ)をもとにして計算したマグニチュードのことです。気象庁で一般的に算出するマグニチュードに比べて、規模の大きな地震に対しても有効です。

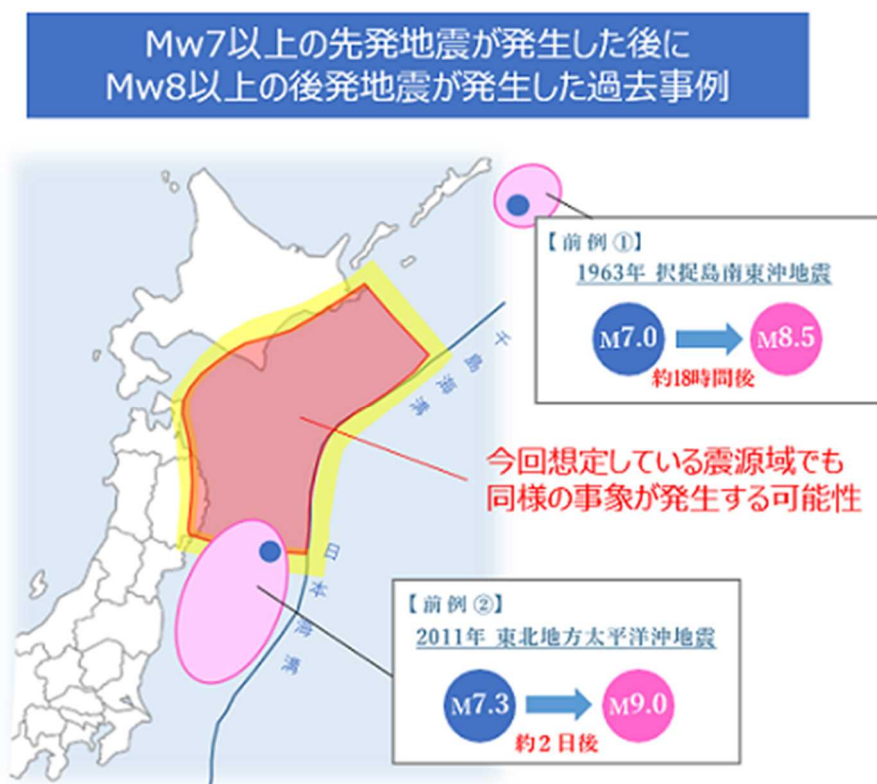


図1 情報の対象領域(赤枠内)と過去の後発地震の事例

(参考)

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/ncsq/index.html>

気象庁 | 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震について

◆南海トラフ地震臨時情報

静岡県が位置する南海トラフ沿いでは、大規模地震(M8 から M9 クラス、南海トラフ地震)の発生の可能性が高い状態です。また、過去の事例では、M8 クラスの大規模地震が隣接する領域で時間差をおいて発生するなどしています(図2)。この南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に「南海トラフ地震臨時情報」を発表します(図3)。政府や地方公共団体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください。

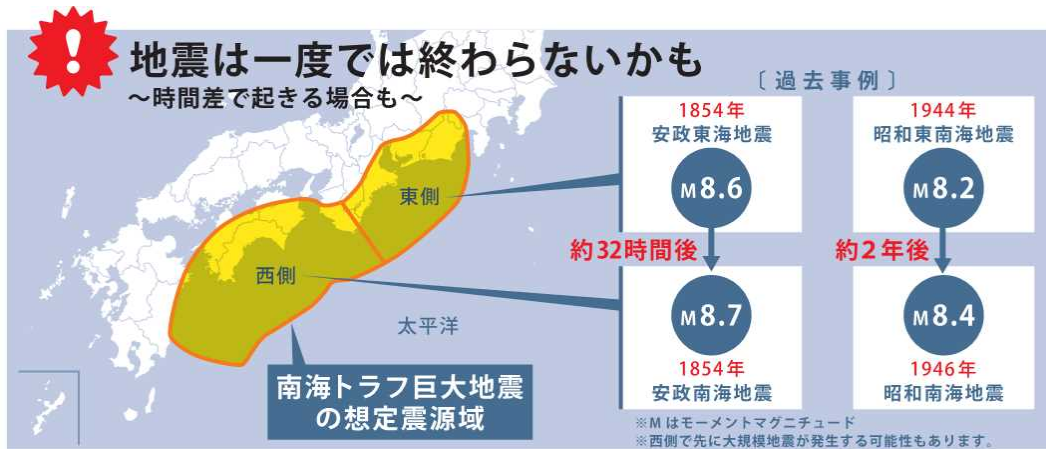


図2 南海トラフ地震の想定震源域と隣接した領域で時間差をおいて地震が発生した例
(内閣府・気象庁「南海トラフ地震 -その時の備え-」)

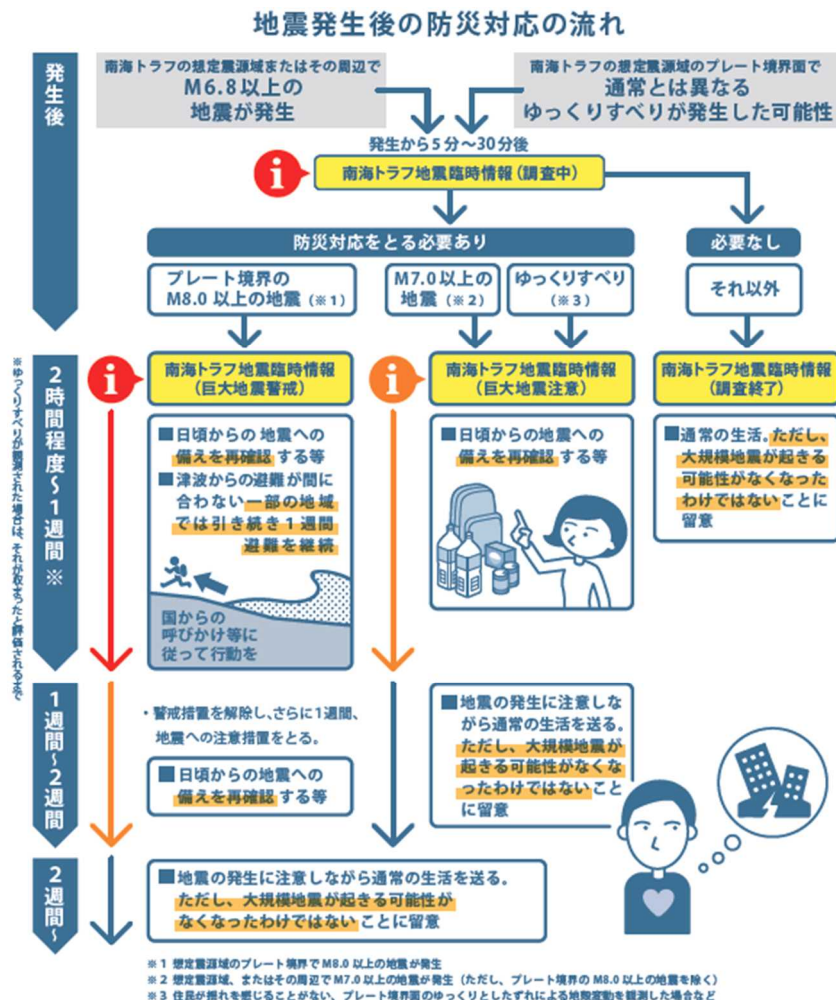


図3 南海トラフ地震臨時情報の発表と防災対応の流れ
(内閣府・気象庁「南海トラフ地震 -その時の備え-」)